

この季節、実りの秋を感じている人も大勢います。山で暮らす動物たちは、この実りの秋が死活問題になります。これから迎える厳しい冬を乗り切るためにたくさん食べて体に脂肪を蓄える動物たちや、冬に備えてドングリなどを忙しく集めて、いろいろなところに隠す動物もいます。これらの生き物たちが、この秋も実りの秋を満喫できるとよいのですが、今年の山の様子では、厳しいものがあります。

昨年は、ブナやドングリが全国的に大豊作で、山で暮らす生き物は「恵みの秋」に助けられたのですが、その反動で、今年の実のなりは全国的に悪いといわれています。

今年の2月には林野庁が早々に、今年の秋にツキノワグマの人里への出没警戒を出しました。実際にあきる野でも、コナラ・ミズナラの枝先に十分なドングリは確認できません。

豊凶差の少ないといわれるクリも、9月の調査で、奥山では約20葉に1個のクリが確認できました。一見豊作に感じますが、栽培種では約9葉に1個のクリとなっています。山のクリは、畑地のクリに比べて半分以下のなりといえます。

このことから、今年は、ツキノワグマが山で得る餌がとても少ないことになります。2012年に母子3頭の

ツキノワグマが人里に出没した状況に似ているといえます。



ツキノワグマが人里に出没する大きな要因は二つあります。その一つは、山で十分な餌が得られないこと。このことで、ツキノワグマは、餌を求めて広範囲に移動し、普段なら近づかない人里周辺に来たりします。もう一つの要因は、人里に餌があり、クマを呼び寄せることです。この二つの要因が重なると、ツキノワグマはすぐに人家の庭先に現れます。特に、クリ、カキ、キウイフルーツなどの未収穫の果物が人家近くにあると、とても危険です。また、屋外の生ごみなども狙われます。そして、人里で安易に餌を得ることを覚えたクマは、なかなか山に帰りません。この結果、不幸な事故につながるケースが全国的に発生しています。自然豊かなあきる野市で暮らすとき、頭の片隅で野生動物のことを考えて生活していただけると、野生動物とのすみ分けや共存で自然豊かなあきる野市の「生物多様性」を維持して行けると考えます。